

親子で防災!

防災学習体験事業の実施

社会教育関係団体である八雲町地域子ども会育成連絡協議会（通称八子連）では、今年、新たな主催事業として防災学習体験事業「親子で防災!〜いっしょにミッションクリアしよう〜」を開催しました。北海道全域にブラックアウトという衝撃を与えた二〇一八年の北海道胆振東部地震や、記憶にも新しい台風一九号の猛威など、予想できない災害が頻発している近年、親子で防災について改めて学び、考える機会を設けると共に、子ども会活動における安全管理についても学ぶ場として、公民館を会場に実施したものです。

当日は次に掲げる三つのミッション(テーマ)に取り組みました。

- 一、耐熱ビニール袋でカレーライスを作るべし
- 二、防災について学ぶべし
- 三、段ボールベッドを組み立てて寝てみるべし

ビニール袋でカレーづくり

被災時に停電・断水した場合を想定し、限られた水と火力で温かい食事を作る方法として、近年注目を浴びている「耐熱ビニール袋」を活用したカレーライスづくりを実施しました。



どの家庭の冷蔵庫にもある食材を使い、ビニール袋の中でも短時間

間で味を馴染ませるコツを学び、参加者からは「被災したときに温かく食べ慣れたカレーライスが食べられると安心すると思う。」といった声や、「食べたらず捨てるだけで良いビニール袋は断水で皿洗いも難しい状況では大助かり。」といった感想が寄せられていました。

防災・安全対策学習

防災・子ども会活動における安全対策学習では、北海道ではただ一人の安全啓発上級指導者である椿勇喜氏（苫小牧市）を講師に招き実施しました。北海道胆振東部地震の際のリアルな体験談も交え、避難の妨げになる「正常性バイアス」(災害などの非常事態を過小評価する心理状態)の恐ろしさや、昭和五十一年に発生した子ども会活動における死亡事故(三重県)裁判の争点についても学びました。「防災も子ども会活動の危険性についても、一番大切なのは、大人が、子どもたち自身に何が危険なのかを理解させる、気付かせること。」という講師からのメッセージが印象的でした。

段ボールベッドづくり

最後のミッションとして、昨年、八雲町にも導入された段ボールベッドについて学びました。役場総務課防災係の職員から、段ボールベッドが注目されている理由(軽くて暖かく、丈夫で、避難所でもプライバシーを確保できる点)を学んだあと、実際の組み立て体験を行いました。「思ったよりも簡単」と、参加者同士で協力し合い、ものの数分で一床分のベッドが出来上がりました。防災・安全管理について、多角的な視点から学ぶ一日となりました。

